

## 第27回

# 秀麗富嶽十二景写真コンテスト

## 入選作品

# フィルム部門

最優秀賞

雪後の雲海

村上 敏幸（山梨県大月市）

奈良倉山



川隅功氏講評

雪後のチャンスを予想して登山された努力のご褒美だと思います。前景の雪を被った木々の山並みにややマゼンタ掛かった雲のバランスが絶妙です。動きも感じますし、素晴らしいシャッターチャンスを捉えられました。

推薦

盛春

古屋 和郎（山梨県南都留郡）

大蔵高丸



川隅功氏講評

盛春と言うより、初夏の兆しの緑の香りを強く感じる作品です。左からの斜光線を上手に使い、山の陰の部分も適当に残し、画面に立体感を表現していると思います。気持ちを爽快にさせてくれる作品です。

推薦

朝雲燃ゆ 奈木 正次（山梨県大月市） お伊勢山



川隅功氏講評

真っ赤に染まった雲が富士山上空に現れたのに気づき広めのレンズで、雲全体を画面に入れ、富士山を左下に小さく配置したフレーミングされました。臨機応変に閃きでフレーミングされたところが素晴らしいです。

特選

列風に明ける

高津 秀俊（山梨県大月市）

雁ヶ腹摺山



川隅功氏講評

富士山頂の左側から徐々に光線が当たり出した微妙なトーンのキャッチが素晴らしいと思います。ハイライト測光により雪や雲のトーンを飛ばすことなく、全体をアンダー目に仕上げたプリントも的確だったと思います。

特選

晩秋の空に広がって

三枝 秀雄（千葉県君津市）

牛奥ノ雁ヶ腹摺山



川隅功氏講評

何処までも広く澄み切った秋の空と秋らしい雲々がとてもさわやかなトーンで表現されています。PLフィルターを微調節して、青空を暗く落とさなかったことが良かったと思います。右下の樹木も効果的でした。

特選

雪晴爽快 山下 政明（神奈川県秦野市） 小金沢山



川隅功氏講評

この日は条件が良く、何点か応募がありました。天候を読んで撮影に臨んだ点、画面の前景の処理など良かったのですが、光線が少し高すぎました。斜光線の際に撮影できていたら、もっと素晴らしい作品になったと思います。



入賞

雲色づく 村上 敏幸（山梨県大月市） 雁ヶ腹摺山



川隅功氏講評

光のキャッチが素晴らしい作品です。頂上上空の雲のみに赤い光線が射し、中腹には光が射していない瞬間を捉えられたことにより、光の強弱や雲の高さの表現に繋がりました。頂の一部に光が射している瞬間を捉えたことも素晴らしいと思います。

入賞

立ち枯れの木の中に 谷口 一只 (埼玉県加須市) 牛奥ノ雁ヶ腹摺山



川隅功氏講評

立ち枯れの木を前景に捉えた作品は、数点ありましたが、この作品が群を抜いて安定感がありました。縦位置に構えたことにより、空に伸びる木々の表現も的確ですし、斜光線を捉えることにより、立体感が表現できました。

入賞

冬まぢか 天野 茂雄（山梨県南都留郡） 大蔵高丸



川隅功氏講評

前景に真っ赤に色付いた樹を大胆に捉えられ、インパクトある作品です。赤い前景と白い雪の富士山とのコントラストが素晴らしいと思います。冬を迎える短い期間の紅葉風景を見事に写されています。

入賞

雪晴れて 奈木 正次（山梨県大月市） 滝子山



川隅功氏講評

里では春の準備が進む3月下旬の雪らしく、前景の木々に付いた雪が、直ぐに解けたようです。又、山並みの樹林にも薄っすらと白く残る雪が見え隠れしていて、この季節の雰囲気絶妙に表現されています。

入賞

月影

奈木 正次（山梨県大月市）

奈良倉山



川隅功氏講評

デジタルでは、このような場面も難なくクリアーできますが、フィルムカメラでの挑戦に拍手です。月の周辺に雲があったこともラッキーでした。画面左下の街並みのトーンは、フィルム使用を考えると素晴らしいです。

入賞

黎明

村上 敏幸（山梨県大月市）

百蔵山



川隅功氏講評

夜が明ける前の黎明時のブルートーンが、魅力的です。デジタルでは表現しきれないフィルム使用の成果が出ていると思います。画面構成も、両端から横Vの字が交互に差し込むバランス構図も良い点です。

入賞

岩殿山の春 大戸 康世（山梨県大月市） 岩殿山



川隅功氏講評

桜のボリュームに圧倒されます。晴天の桜は、花びらのトーンが白飛びしないように、ハイライト重視の露出で撮影しますが、するとシャドウが潰れます。プリント時にデジタル技術を借り、暗部のみ少し明るく処理するように指示してください。

入賞

深まる秋に 奈木 正次（山梨県大月市） 御前山



川隅功氏講評

木々が紅葉する晩秋の季節感溢れる山並のラインを画面右下よりバランスよく配置して、なおかつ斜光線も利用して立体的に表現できています。雲の動きも見極めて、的確なシャッターチャンスで捉えられています。



入賞

紅雲頂上にかかる 谷口 一只 (埼玉県加須市) 高川山



川隅功氏講評

淡く紅色に色付いた雲をバランスよくフレーミングしています。手前の山のラインの取り入れ方、街並みの入れ方などもバランスが良いと思います。画題が、説明的なので、もう一度考えてみてください。

入賞

山霧流れて 池田 浩樹（山梨県大月市） 本社ケ丸



川隅功氏講評

霧の動きを見極めてのシャッターチャンス選択が絶妙です。画面右下の木々の後ろの霧が若干濃い為、木々が引き立ちましたし、その反面、画面左側の霧が薄く、山波が見え隠れする魅力的なトーンで表現できました。

# デジタル部門

白簾史朗賞

朝陽に染まる

小俣 仁（山梨県都留市）

清八山



川隅功氏講評

前景の朝日に赤く染められた樹氷の木々に目が奪われます。まずインパクトある前景の木々で、鑑賞者の興味を引き付け、枝先が集まる方向に美しい富士山を配置する技が隠されている素晴らしい作品です。

大月市長賞

風強く 高津 秀俊（山梨県大月市） 岩殿山



川隅功氏講評

非常に面白い雲の形に出会われました。画面左下方の雲などは、まるでもう一つの富士山が映しだされているようです。デジタルの後処理がほんの少し行き過ぎたのか、空の部分にノイズが少し出てしまい残念です。

大月市観光協会会長賞

新緑薫る 天野 喜夫（神奈川県相模原市） ハマイバ



川隅功氏講評

新緑・萌黄の季節感が非常によく表現されています。雲一つない快晴の空が爽快で、前景に配置した樹のバランスも絶妙です。誰しものが、ここに行って深呼吸したくなる素晴らしい作品です。

白簾史朗後援会会長賞

秋麗富士 小林 忠 (山梨県甲府市) 雁ヶ腹摺山



川隅功氏講評

紅葉の葉を落とした晩秋の季節に狙われた意図が伺われます。雲に浮かぶように富士を配置したセンスが光ります。カメラを僅かに上に降り、下部を少しカットして、上部の雲をもう少し入れたほうが安定したと思います。

## 総評

審査員長 川澄 功

今回、最初にお話をいただいた時に、白籐先生の後釜ということで「私でよいのか」と非常に緊張しました。過去の作品データを拝見して、さすがに白籐先生だな、白籐先生っぽい選び方だなということを感じました。

全作品を見て、人数は少ないものの、気持ちのこもった良い写真が多く、レベルも高いコンテストだと感じました。

今回、たくさんの応募作品の中から私なりに考え、富士山の山頂のみならず、大月の街並み、季節感あふれる木々、前景を入れた作品を選びました。富士山頂を主役に作画するのはわかるのですが、富士山は360度どこからでも見ることができるので、やはり大月ならではの季節感あふれる手前の風景、そんなところを入れた作品がよいのかなといった考えのもと選定させていただきました。

岩殿山の有名な桜、ツツジは過去の入賞作品と被ってしまうので、違うものを選びましたが、立ち枯れがあったり、雲、やはり富士山は雲の表情、ベテランの写真家の人達はそこを狙うので、特に顕著にそういった作品が出品されていました。雲と同時に、大月市長賞に選ばれた写真は、雲の形もそうですが、一瞬の影と光の具合、微妙なんですけれども光の具合が非常に魅力的でありました。推薦に選ばれた「朝雲燃ゆ」などは、富士山が主役でなく雲が主役となっているのですが「あれ、富士山どこ?... あった!」という喜びとともに決してこれだけ色がついている雲に負けないだけの存在感のある富士山、そんなところが魅力的でした。

秋の雲だとか冬景色、黎明、月と星、入賞に選ばれた「月影」という作品ですが、フィルムではこの調整は難しく、今後デジタルが増えていくと夜の写真は増えていくと思われ、フィルム作品としてはこの作品が最後かな?などと思いながら選定しました。来年以降、デジタルが主役になっていったならば、もっともっとたくさんのこういう景色が出てくると思うので、また幅が広がっていくのではないかと考えています。

決して白籐先生の選定を否定するわけではなく、やはり白籐先生独自の作風というものがあって、審査員が変わればコンテストも変わり、傾向も変わります。皆様が入賞された作品をご覧になって、前よりも彩り豊かで変わったなと思われるのかもしれませんが、返ってそれが良い方向に向かって、大月市の益々の繁栄につながっていけばよいなと思っております。